

起因物（小）別コードno.513 可燃性のガス労働災害発生状況

業種別可燃性のガス労働災害発生状況（1999-2021年）

業種	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
010101 肉製 品、乳 製品製 造業			1				1					1				1								4
010102 水産食 料品製 造業														1										1
010103 農業保 存食料 品製造 業																								
010104 パン、 菓子製 造業			1	2		5	2		2				1			1	2	2				1	1	20
010105 酒類製 造業																								
010106 飲料 （酒類 を除 く）製 造業																								
010109 その他 の食料 品製造 業			4	2		3	3	4	6	1	2	2	5	2				2	3		2	3		44
0101 食料品 製造業			6	4		8	6	4	8	1	2	4	6	2	1	3	4	3			3	3	1	69

0301	土木工 事業			10		9		9	11	5	8	1	3	2	14	2	3		2	4	3	4	4		94
030201	鉄骨・ 鉄筋コ ンク リート 造家屋 建築工 事業			5		2		2		2	3		6	2	1	2	1	3		1	2	3	1		36
030202	木造家 屋建築 工事業					2		1	1					2			1			1					8
030203	建築設 備工事 業			5		3		1	2	2	2	1	3	3	3	4	1		3	1		1		1	36
030209	その他 の建築 工事業			2		1		3	3	2	1	7	5	4	4	1	4	4		2	1	1	1		46
0302	建築工 事業			12		8		7	6	6	6	8	14	11	8	7	6	8	3	5	3	5	2	1	126
030301	電気通 信工事 業								1										2				1	4	
030302	機械器 具設置 工事業			4				1		2	1	3	4		4	2	2	1	3	1	5	2	1		36
030309	その他 の建設 業－そ の他			5		6		6	5	4	5	3	2	7	5		3	3	1	3	2		1		61

0303 その他の建設業			9		6		7	6	6	6	6	6	6	7	9	2	5	4	6	4	7	2	3			101
03 建設業			31		23		23	23	17	20	15	23	20	31	11	14	12	11	13	13	11	9	1			321
040101 鉄道・軌道業															1											1
040102 水運業								1																		1
040103 航空業																										
0401 鉄道・軌道・水運・航空業								1							1											2
040201 ハイヤー・タクシー業			2													1										3
040202 バス業								1	1		2		1													5
040209 その他の道路旅客運送業																										
0402 道路旅客運送業			2					1	1		2		1			1										8
040301 一般貨物自動車運送業			1		2		2	3	1	2	1		5		1		2	1	3	2	2	2	2			30

17 その 他の事業												1											1	
0 全産業	2	2	4	3	2	5	2		9	3		1	4	8	4	2	3	1		2	2	1	1	61

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm> (MHLW, Japan)

可燃性のガスを起因物（小）とする死亡災害事例（2012-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2012	9	9 ～ 10	車両の燃料タンクであるガス容器を自動車解体業者から回収し、当該事業場内に保管していた。ガス容器は廃棄処理するものであったが、容器の処理については詳しく指示がされないまま、一般のLPG容器と混在して敷地内に置かれており、被災者はこのCNG容器を解体しようとして、ベビーサンダーで容器を切断していたところ、当該容器が破裂して被災した。	11709	15	10 ～ 29
2012	5	10 ～ 11	トンネル建設工事現場で、坑口から約1、500m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員複数名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、トンネル工事は休工しており、当日は工事再開に向けた準備を行っていた。	80109	14	30 ～ 49
2012	5	10 ～ 11	トンネル建設工事現場で、坑口から約1、501m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員複数名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、トンネル工事は休工しており、当日は工事再開に向けた準備を行っていた。	80109	14	30 ～ 49
2012	5	10 ～ 11	高規格トンネル建設工事現場で、坑口から約1,500m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員3名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、当該トンネル工事は休工しており、被災日は工事再開に向けた準備を行っていた。	30102	14	1～ 9
2012	5	10 ～ 11	高規格トンネル建設工事現場で、坑口から約1,500m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員4名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、当該トンネル工事は休工しており、被災日は工事再開に向けた準備を行っていた。	30102	14	100 ～ 299
2012	12	7 ～ 8	被災者は砂利搬送作業を行うため採石船に乗り込んだ。その際、出航前の打ち合わせを行う前に珈琲を飲むため、早めに船に乗り込んでいた作業員が甲板下の空きスペースに備え付けられていたプロパンガスボンベが直結されていたガスコンロに火をつけようとしていたが、点火装置が故障していたため、柄の長い携帯用点火装置で火をつけたところ引火し、爆発した。	20202	14	1～ 9

2012	4	14 ～ 15	ボイラーCOG（コークス・オープン・ガス）ブーストブロア整備作業において、金属製の円形フタ（直径約1m、重量約50kg）を取り外していたところ、爆発音と共にフタが外れ、作業をしていた被災者に激突した。転倒した被災者は、頭部を強打し、救急搬送先の病院にて死亡が確認された。	11702	14	1～ 9
2012	10	9 ～ 10	被災者は住宅外溝工事にて、電動工具を用いて既存コンクリートの切断作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルにより損傷したガス配管から漏れて滞留していたプロパンガスに電動工具のモーター若しくはコンクリート部を切断している際の火花が着火源となって引火し、全身を火傷した。	30106	11	10 ～ 29
2013	7	14 ～ 15	工場内で爆発が起きて建物が炎上し、2人の被災者は鎮火後に遺体で発見された。建物の中には7人がいたが、建物から逃げる事ができた5人に怪我はなかった。建物の内部の状況から、アセトンを使用して鮭の軟骨の脱脂・脱水を行っていた部屋で爆発が発生したと推測されるが、爆発が発生した原因、発生した時の状況は不明。	11709	14	1～ 9
2013	7	14 ～ 15	工場内で爆発が起きて建物が炎上し、2人の被災者は鎮火後に遺体で発見された。建物の中には7人がいたが、建物から逃げる事ができた5人に怪我はなかった。建物の内部の状況から、アセトンを使用して鮭の軟骨の脱脂・脱水を行っていた部屋で爆発が発生したと推測されるが、爆発が発生した原因、発生した時の状況は不明。	11709	14	1～ 9
2013	8	14 ～ 15	防波堤の災害復旧工事現場において、津波で押し倒された既設鋼管矢板を撤去するための準備作業として、鋼管矢板の本切断時に発生する気体を抜くため、鋼管矢板の上端部に穴を開ける作業を行っていたところ、爆発が発生し被災した。	30111	14	30 ～ 49
2013	11	9 ～ 10	ガス管の敷設工事の際、ドラグショベルで町道を掘削していたところ、バケットが既設のガス管に接触し破損したため、被災者がタオルで破損箇所を栓をしようとして、漏えいしたLPガスを吸い込んだ。	30199	12	10 ～ 29
2014	4	14 ～ 15	プレスにて、被災者がスプレー缶等の金属くずを押しつぶし、成形していたところ、爆発し、死亡した。	11009	14	10 ～ 29
2014	1	3 ～ 4	店舗内地下1階で、被災者が使用済み消臭用スプレー缶（1本：450ml）の残ガス抜きを行っている途中、煙草を吸うためライターに火を点けたところ、突然爆発し、付近に居合わせた他2名の労働者とともに被災した。尚、爆発は1回で、他2名は重症1名、軽傷1名。消臭スプレーの残ガスはLPGであり可燃性。約30本のスプレー缶が確認されたがどの程度の本数、残ガスを抜いていたかは不明。	140309	14	30 ～ 49
2015	9	15 ～ 16	小学校の給食調理室の厨房内において、本件事業場（以下「事業場」という。）労働者3名が給食調理後の後片付け等の作業中、また、害虫駆除事業場（以下「業者」という。）の労働者が害虫駆除作業中、突然爆発が発生し、事業場の労働者3名のうち1名が死亡し、2名が負傷、業者の労働者及び当該小学校の児童4名も負傷した。	120109	14	1～ 9
2015	2	15 ～ 16	鉄筋のガス圧接業者の労働者がダブルキャブトラックの助手席で午後の休憩中に、トラック荷台で「ボン」と及び「シュー」という音がしたので、アセチレンボンベのホースが外れたと思い、助手席から降りて荷台へ向かった時に突然爆発した。全身熱傷等で入院加療中の3月18日に、「全身熱傷による多臓器不全」で死亡した。	30201	14	10 ～ 29
2015	11	9 ～ 10	住宅新築工事において、水道管等の敷設作業を請負った関係請負人の労働者が、ドラグショベル（ミニバックホー）で掘削作業中、埋まっていたガスのポリエチレン管をバケットで破損させた。労働者が破損した配管を補修しようと深さ約80cm掘った掘削箇所内に入り作業を行っていたところぐったりしたため、同僚がすぐさま掘削箇所内から引き上げたがその後酸欠により死亡したものの。	30202	12	10 ～ 29
2016	11	15 ～ 16	屋外にて点検が済んだタクシーの燃料タンク（液体ブタン入り）をトラックの荷台に積み込み作業中、タンクの温度センサーが破損していたため、その場で交換しようとしてタンクから外したところ、タンク内の液体ブタンが屋内の方向に噴出し、被災者も全身に浴びた状態であった。屋内にはガスストーブが設置されていたため、焦った被災者がその状態のままガスストーブを止めに行ったところ、全身に火が回り火傷を負った。	11702	16	10 ～ 29

2018	10	14 ～ 15	酸化マグネシウム及び水素の製造設備（反応塔）内に原料のマグネシウム片及び着火剤の水素化マグネシウムを投入後、水蒸気を供給することで燃焼反応させていたところ、反応塔が爆発し、付近にいた労働者が死亡した。	30302	14	1～ 9
2018	4	8 ～ 9	災害発生現場となった事業場において火災が発生し、設備に被害が生じたため、被災者は別の電気工事業者と共に災害発生現場となった事業場を訪問し、打ち合わせ後に単独で設備の点検作業を行っていたが、砂型を再利用する設備のタンク内で死亡している状態で発見されたもの。	80109	12	1～ 9
2019	3	14 ～ 16	解体予定の個人住宅の敷地内において、午前中からガス管の閉栓作業を単独で行っていたが、自身を手掘りで掘削したと思われる掘削溝に頭を入れ、うつ伏せに倒れている状態で発見されたもの。	30203	12	1～ 9
2019	1	6 ～ 8	化学工場工場棟新築工事現場における作業員用駐車場において、現場作業員が乗っていると思われる車両が炎上した。車両を消火したところ、炎上した車内に焼死体1体が発見された。	30209	14	1～ 9
2020	7	8 ～ 10	休業中の飲食店の改修工事中であった店舗内に入場した施工管理者が、何らかの原因で発生した爆発に巻き込まれ、死亡したもの。その爆発の影響のあった範囲内であった事業場及び一般住宅などにいた複数名が被災した。	30201	14	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html